

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業療法概論(研究法)	授業形態	講義・ 演習 ・実習	学科・年次	作業療法学科・3年
				曜日・時限	月曜日・2限目
担当教員	中村 千紘				
授業概要	疑問に思ったことを調べ、探求していくことはセラピストとして大切なことです。また、卒業後に研究を行うことは自身を成長させていくことにもつながります。この講義では、どのように研究テーマを見つけ、計画書を立案し、実施するのか、実施したことをパワーポイントを用いてどのように他者に分かりやすく伝えるのか、という一連の流れを実施します。				
学習目標	① 研究とは何かを理解する。 ② 研究計画書の作成ができる。 ③ 計画書に沿って研究を実施できる。 ④ 研究した内容をまとめる。 ⑤ パワーポイントを用いて発表できる。				
回数				担当教員	
1回目	オリエンテーション 研究とは(研究様式の分類、テーマを見つける)			中村 千紘	
2回目	研究計画書の作成(研究計画書の目的、書式)			中村 千紘	
3回目	研究の実施について(研究倫理と管理)			中村 千紘	
4回目	研究計画書の作成①			中村 千紘	
5回目	研究計画書の作成②			中村 千紘	
6回目	研究の実施とまとめ①			中村 千紘	
7回目	研究の実施とまとめ②			中村 千紘	
8回目	研究の実施とまとめ③			中村 千紘	
9回目	レジュメ作成のチェックポイント			中村 千紘	
10回目	レジュメに合わせたパワーポイント作成のチェックポイント			中村 千紘	
11回目	発表準備①(パソコンを用いたグラフ等の挿入方法)			中村 千紘	
12回目	発表準備②(パワーポイントの使い方、アニメーションなどの効果的な使い方について)			中村 千紘	
13回目	発表準備③(発表原稿と発表時の読むスピードについて)			中村 千紘	
14回目	研究発表①			中村 千紘	
15回目	研究発表②			中村 千紘	
教科書及び参考書	作業療法士のための研究法入門/三輪書店 その他随時、プリント等の配布を行う。				
成績評価	定期テスト(発表)50%・レポート50% ※欠席は3点、遅刻は1点減点とする。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>自分の疑問に思ったことを調べ、形にする、それを他者に伝えるという目的で発表する、この一連の流れは、臨床現場において、作業療法士が地位を確立するため、また自分自身の成長に欠かせません。また発表をするという経験は、実習で自分の見解を発表するとき、質問をされたときに落ち着いて返答するための練習ともなります。</p> <p>初めての研究ですから、分からないことやどうしたらよいか分からないことが出てくるのは当然です。そういった疑問をきちんと聞いたり、調べたりすることから研究は始まります。疑問や方向性に不安を感じた時には担当教員に相談して進めていってください。成績評価は提出物の期限がきちんと守られているか、レポート内容、発表内容にて評価します。レポートの提出期限は必ず守ってください。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
大学院での研究経験や、精神科での臨床経験を活かした研究発表、学校における教員としての研究発表をもとに学生に研究についての基礎と発表までの工程を伝える。学生が実施できるように指導し、理解できる講義を実施する。精神領域、高齢者領域の老人保健施設と身障領域での勤務経験から作業療法士になるために必要な専門知識、技術の修得を指導する。					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	医学情報処理学	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	作業療法学科・3年
				曜日・時限	火曜日・2限目
担当教員	中村 千紘				
授業概要	患者を評価するにあたって、現病歴や作業療法評価に加え、X線CT、MRIなどの画像も含めて患者の症状やリハビリテーション目標、プログラム立案を実施する必要がある。 画像問題は国家試験にも頻出するため、画像を読み取り、疾患やみられるであろう症状と合わせて理解することを目標に講義を実施する。				
学習目標	① 脳画像をMRIやCTから読影する方法について学び、高次脳機能障害と結びつけて考えることができる。 ② 脳画像、脊柱、上下肢、内臓についての画像診断を学ぶ。 ③ 心電図を読みとれるようになる。				
回数				担当教員	
1回目	オリエンテーション 脳画像読影の基礎知識			中村 千紘	
2回目	脳動脈領域、大脳の各領域分野の確認			中村 千紘	
3回目	脳血管障害、くも膜下出血、頭部外傷の脳画像の見方とCVAの基礎知識			中村 千紘	
4回目	脳腫瘍の脳画像のチェックポイント			中村 千紘	
5回目	認知症の脳画像のチェックポイントと認知症の分類について			中村 千紘	
6回目	脊柱疾患 頸椎における椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の画像診断			中村 千紘	
7回目	脊柱疾患 腰椎における椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の画像診断			中村 千紘	
8回目	肩甲骨・鎖骨・上肢の骨折における画像診断			中村 千紘	
9回目	下肢の骨折における画像診断			中村 千紘	
10回目	関節リウマチや変形性疾患の画像診断			中村 千紘	
11回目	内臓(肺)における画像診断			中村 千紘	
12回目	内臓における画像診断 確認小テスト			中村 千紘	
13回目	心電図の基本について			中村 千紘	
14回目	心電図の読み取りのチェックポイント			中村 千紘	
15回目	画像診断と心電図のまとめ			中村 千紘	
教科書及び参考書	PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版/医歯薬出版株式会社 病気がみえる vol.7 脳・神経、vol.2 循環器 /MEDIC MEDIA その他随時、プリント等の配布を行う。				
成績評価	小テスト30% 定期テスト100% 欠席は3点、遅刻は1点減点とする。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>身体障害領域の実習において、患者のCT画像やMRI画像から情報を読み取る力は必須であり、また、国家試験においても頻出問題となっている。この講義では画像の読み方だけでなく、そこから今まで学んだ疾患や症状と合わせて理解することを目標とする。</p> <p>講義を受けている中で、理解できないことがあるときには質問をし、積極的に学んでいけるようにしてください。</p> <p>画像問題は慣れや診るべきポイントがあります。聞きながら教をこなすことで、画像問題に対して苦手意識なく取り組めるようになると思いますので、あきらめないで理解できるように頑張りましょう。また、第12回目に確認小テストを実施します。画像の診方について、一度知識の復習と理解度を確認して期末試験に臨めるようにしましょう。また、確認小テストは30%割合で成績評価に含めますので、事前にテスト勉強をして臨んでください。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>整形外科、老人保健施設において、身体障害領域のリハビリや整形疾患、認知症の方々のリハビリテーションを担当していた。</p> <p>その経験を活かし、画像診断と症状を結び付けることに加え、心電図についての講義を実施する。</p>					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身障Ⅰ)(実習)	授業形態	講義・演習 	学科・年次	作業療法学科3年
				曜日・時限	火曜3・4限
担当教員	吉田 準				
授業概要	現在の日本で作業療法士として身体障害のリハビリテーションに関わる時に、一番対象としてかかわる場合が多い疾患は脳血管障害であろう。また、整形外傷として上肢の骨折に対し関わる場合も多い。これら中枢神経障害や骨関節疾患について作業療法の治療的対応について学んでいく。				
学習目標	各疾患の概要(定義・特徴・分類・合併症)について説明できる。それぞれの疾患の呈する症状について説明できる。各疾患の症状に対するの評価し、作業療法プログラムを計画できる。				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 中枢神経疾患① 脳血管障害1 p162～164				吉田 準
2回目	中枢神経疾患① 脳血管障害2 p164～165				吉田 準
3回目	中枢神経疾患① 脳血管障害3 p166～p168				吉田 準
4回目	中枢神経疾患① 脳血管障害4 p169～p172				吉田 準
5回目	中枢神経疾患① 脳血管障害5 p173～p178				吉田 準
6回目	中枢神経疾患① 脳血管障害6 p179～p183				吉田 準
7回目	中枢神経疾患② 頭部外傷1 p185～p190				吉田 準
8回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷1 p191～p192				吉田 準
9回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷2 p193～p196				吉田 準
10回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷3 p197～p198				吉田 準
11回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷4 p198～p200				吉田 準
12回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷5 p200～p205				吉田 準
13回目	中枢神経疾患③ 脊髄損傷6 p206～212				吉田 準
14回目	骨関節疾患① 骨折1 p216～p221				吉田 準
15回目	骨関節疾患① 骨折2 p221～p224				吉田 準
16回目	骨関節疾患① 骨折3 p225～p226				吉田 準
17回目	骨関節疾患① 骨折4 p226～p227				吉田 準
18回目	骨関節疾患① 骨折5 p227～p230				吉田 準
19回目	骨関節疾患② 関節リウマチ1 p240～p241				吉田 準
20回目	骨関節疾患② 関節リウマチ2 p242～p245				吉田 準
21回目	骨関節疾患② 関節リウマチ3 p246～p248				吉田 準
22回目	骨関節疾患② 関節リウマチ4 p249～p252				吉田 準
23回目	骨関節疾患② 関節リウマチ5 p253～p254				吉田 準
教科書及び参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版/医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/医学書院 その他随時、プリント等の配布を行う。 病気が見える11「運動器・整形外科」第1版、病気が見える7「脳と神経」第2版/メディックメディア				
成績評価	定期テスト60%+レポート40%、欠席3点、遅刻1点減点とする。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
作業療法士が対応する様々な疾患(中枢神経障害、骨関節疾患など)の病態とその症状を学び、その症状に対する作業療法の治療的対応をぜひ知ってください。 実際に中枢神経障害の患者さんや、関節リウマチ、骨折などの疾患、外傷を負った患者さんに対して現場ではどんな対応をしていたか、経験をを通して伝えたいと思っています。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
実際に中枢神経障害の患者さんや、関節リウマチ、骨折などの疾患、外傷を負った患者さんに対して現場ではどんな対応をしていたか、経験をを通して伝えたい。					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	生活環境論	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	水曜・3限
担当教員	藤野 頼貴				
授業概要	超高齢社会により入院病床や医療費は逼迫しており、住み慣れた地域で病気や障害があっても最期まで暮らしたいという人々の願いから、住環境整備・支援機器に関わる作業療法についての知識が必要となります。また人々を取り巻く環境についての現状や課題と健康への関連。生活とライフスタイルと健康への関連についても知識を持つことで、環境因子についての評価を実施できるようになる事や、良い作業はよい心身を作り、悪い作業は病気を生むことを理解しましょう。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における住環境整備の作業療法の視点を説明できる ・福祉用具のアセスメントについて説明できる ・人の健康行動を理解するために基礎となる理論について説明できる ・物的環境、人的環境と健康への関連について説明できる ・ライフスタイル(食生活、ストレス、喫煙、ギャンブル、労働)と健康の関連について説明できる 				
回数				担当教員	
1回目	ノーマライゼーションとバリアフリー、健康の社会的決定要因について			藤野 頼貴	
2回目	物的環境と人的環境と健康の関連性について			藤野 頼貴	
3回目	ライフスタイルと健康の関連について			藤野 頼貴	
4回目	健康行動理論と行動変容支援について			藤野 頼貴	
5回目	リハビリテーションにおける福祉用具の役割、福祉用具の供給に関わる法律について			藤野 頼貴	
6回目	自助具の種類、自助具の適合判定に必要な要件について (単元テスト)			藤野 頼貴	
7回目	住環境整備の意義、住宅改造相談記録表の作成方法について			藤野 頼貴	
8回目	障害タイプ別福祉用具(体幹・下肢・上肢の筋力低下や随意性の低下)について			藤野 頼貴	
9回目	障害タイプ別福祉用具(上下肢の関節可動域の制限・協調性障害)について			藤野 頼貴	
10回目	障害タイプ別福祉用具(コミュニケーションの障害) 疾患・障害別の福祉用具(脳血管障害、片麻痺)について			藤野 頼貴	
11回目	疾患・障害別の福祉用具(脊髄損傷 高位頸髄損傷、C6～C7)について (単元テスト)			藤野 頼貴	
12回目	疾患・障害別の福祉用具(不全型頸髄損傷 高齢者、パーキンソン病)について			藤野 頼貴	
13回目	疾患・障害別の福祉用具(関節リウマチ、切断)について			藤野 頼貴	
14回目	疾患・障害別の福祉用具(筋萎縮性側索硬化症、デュシェンヌ型筋ジストロフィー)について			藤野 頼貴	
15回目	疾患・障害別の福祉用具(脳性麻痺、認知症)について			藤野 頼貴	
教科書及び参考書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学 配布プリント				
成績評価	単元テスト60%(2回) 単元テスト① 6回目 単元テスト② 11回目 期末試験40% 5回分を1つの単元テストで出題します。単元テストについては6割以上が取得できるまで、繰り返し再学習を実施して再テストを実施して頂きます。また6割以上が取得できている場合についても、単元テストにつき1回のみ再受験する事が出来る事とし、より点数が高い方を成績評価に採用したいと思います。再試験については火曜日17時からのオフィスアワーを活用して頂き、再試験を希望する場合には1週間以上前に予約を入れるようにしてください。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
講義外学習では予習・復習・テスト勉強を含めて15時間の勉強を行うことで、必要な知識の定着が出来ると考えています。 予習ではそれぞれのテーマを自分で調べて要約し、わからない専門用語は調べて、それをノートに書き留める様にすれば、講義される内容がスムーズに頭に入っていきましょう。講義の終了時にはGoogleclassroomを用いて確認問題を実施しますので、それらを中心に復習を実施してください。 また授業の改善や授業理解に役立てる為、Googleclassroomを用いて各自に「コミュニケーション・ペーパー」を配布します。④予習して、さらに授業で深まった点⑤予習では分からなかったし、調べても分からなかった点が授業で解決した点⑥予習でも授業でも分からなかった点を、メモして頂くことにしたいと思います。実施については任意で構いませんが、90分を濃密にする為、ご協力下さい。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
訪問看護ステーションからの作業療法業務に従事し、福祉用具業者と連携し難病や中枢神経疾患患者の福祉用具の選定や、骨折術後患者退院前訪問などによって住宅調整を行ってきました。ソーシャルキャピタルへの取り組みとしても、認知症サポーターの育成や認知症カフェの運営などを行ってきました。実際の福祉用具の活用方法など実技を交えながら授業を実施します。					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅳ(老年期障害)(講義)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・2年
				曜日・時限	水曜・4限
担当教員	藤野 頼貴				
授業概要	我が国は世界に類を見ない高齢化と少子化が進んでいます。医療はもとより、保健・福祉分野での作業療法士の需要増が見込まれます。高齢社会では、疾患や障害へのアプローチもさることながら、障害予防という点が重視されています。「よき生き方」が「よき死に方」へとつながる為、障害をもった高齢者ばかりでなく、健康高齢者にも焦点を当てる必要があります。前期では高齢者の特徴について理解を深めていきます。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期作業療法を取り巻く社会の動向や特性について説明できる ・老年期における身体構造・生理機能・心理社会的変化について説明できる ・廃用症候群の病因・分類・病態について説明できる ・老年症候群の状態と治療について説明できる 				
回数					担当教員
1回目	超高齢社会				藤野 頼貴
2回目	高齢期の課題				藤野 頼貴
3回目	社会制度				藤野 頼貴
4回目	高齢期の作業療法				藤野 頼貴
5回目	高齢期の生理的・身体的特徴				藤野 頼貴
6回目	高齢期の心理的特徴				藤野 頼貴
7回目	老年症候群（尿失禁、摂食嚥下障害と低栄養） <u>単元テスト</u>				藤野 頼貴
8回目	老年症候群（フレイル・ロコモ・サルコペニア・廃用症候群）				藤野 頼貴
9回目	老年症候群（骨折・寝たきり・褥瘡）				藤野 頼貴
10回目	高齢期に多い疾患（循環器・呼吸器）				藤野 頼貴
11回目	高齢期に多い疾患（運動器・内分泌）				藤野 頼貴
12回目	高齢期に多い疾患（精神疾患・その他） <u>単元テスト</u>				藤野 頼貴
13回目	認知症（総論・各論）				藤野 頼貴
14回目	認知症（評価方法）				藤野 頼貴
15回目	認知症（治療）				藤野 頼貴
教科書及び参考書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版				
成績評価	<p>単元テスト60%（2回） 単元テスト① 7回目 単元テスト② 12回目 期末試験40%</p> <p>5回分を1つの単元テストで出題します。単元テストについては6割以上が取得できるまで、繰り返し再学習を実施して再テストを実施して頂きます。また6割以上が取得できている場合についても、単元テストにつき1回のみ再受験する事が出来る事とし、より点数が高い方を成績評価に採用したいと思います。再試験については火曜日17時からのオフィスアワーを活用して頂き、再試験を希望する場合には1週間以上前に予約を入れるようにしてください。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>講義外学習では予習・復習・テスト勉強を含めて15時間の勉強を行うことで、必要な知識の定着が出来ると考えています。予習ではそれぞれのテーマを自分で調べて要約し、わからない専門用語は調べて、それをノートに書き留める様にすれば、講義される内容がスムーズに頭に入っていきましょう。講義の終了時にはGoogleclassroomを用いて確認問題を実施しますので、それらを中心に復習を実施してください。</p> <p>また授業の改善や授業理解に役立てる為、Googleclassroomを用いて各自に「コミュニケーション・ペーパー」を配布します。④予習して、さらに授業で深まった点⑤予習では分からなかったし、調べても分からなかった点が授業で解決した点⑥予習でも授業でも分からなかった点を、メモして頂くことにしたいと思います。実施については任意で構いませんが、90分を濃密にする為、ご協力下さい。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>認知症治療病棟・重度認知症デイケア・訪問看護からのリハビリテーション・デイサービスにて勤務し、認知症をはじめとする高齢者へのリハビリテーションに従事してきました。また地域などでも認知症カフェ等での講師を行ってきた為、医学的リハビリテーションのみならず、予防領域においても地域包括ケアシステムの一役を担えるように授業を展開します。</p>					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	義肢装具学（講義）	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年生
				曜日・時限	木曜日・1限
担当教員	廣島 淳				
授業概要	義肢装具の変遷、近年の適応、名称、種類及び構造、機能評価法を学び、義肢を使用する切断患者のリハビリテーションや装具を使用するリハビリテーションの実際について学習する。				
学習目標	① 装具の種類、構造、機能、適応について説明できる。 ② 義肢の切断部位に対する種類、構造、機能、適応について説明できる。 ③ 各疾患の特徴、障害像を説明できる。 ④ 各疾患に対して使用する装具のデザインと目的、必要な評価、使用法を説明できる。				
回数					担当教員
1回目	義肢装具総論、リハビリテーションにおける義肢装具の役割 P.190～194				廣島 淳
2回目	義肢装具士、作業療法士、理学療法士及び医療従事者の関連 P65～79 P190～194				廣島 淳
3回目	義肢装具の支給体系、健康保険等のしくみについて P18				廣島 淳
4回目	体幹装具概論 体幹装具に関する基礎知識と症例に対する装具療法の展開について学習する。P194、P276～277、P348				廣島 淳
5回目	" 仙腸装具、腰椎装具、胸椎装具、頸椎装具について学習する。 P194、P197、P272～287、P292				廣島 淳
6回目	上肢装具概論 指装具、MP装具について学習する。P192、P197～199、P209、P300～302、P320～331、P348～350				廣島 淳
7回目	" 対立装具、手関節装具、把持装具について学習する。P192、P214、P300～302、P307～319、P332～341、P348～350、P357～P358				廣島 淳
8回目	" 肘装具、肩装具について学習する。P192、P207～209、P213～214、P248～249、P257～259、P298、P300、P348～349				廣島 淳
9回目	下肢装具概論 足底装具について学習する。P193、P265～P271、P298～299、P346～348				廣島 淳
10回目	" 短下肢装具、膝装具について学習する。P193、P210～214、P248～256、P302～304、P342～346、P357～358				廣島 淳
11回目	" 長下肢装具、小児用装具について学習する。P193、P201～204、P209～213、P227～235、P252、P260～270、P357～358				廣島 淳
12回目	義手概論 義手の基礎知識について学習する。P65～68、P70～83、P357～358				廣島 淳
13回目	" 義手の基本構造について学習する。P83～119				廣島 淳
14回目	義足概論 義足の基礎知識について学習する。P70～79、P120～188				廣島 淳
15回目	" 義足の基本構造について学習する。P120～188、P357～358				廣島 淳
教科書及び参考書	義肢装具学（医学書院） 義肢装具のチェックポイント（医学書院）				
成績評価	筆記試験(80%) 出席率(10%) 授業態度(10%) で評価する。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>授業では、教材として実物の義肢・装具を使用、回していきますので、よく観察し、また装着してみるなどして、質感や、装着の仕方、ベルトの位置などをよく観察して、理解を深めて下さい。</p> <p>また、睡魔に襲われた時には、教室の横に立って聞くなり、トイレに行って顔を洗うなり、自分自身で工夫してみてください。</p> <p>義肢・装具に興味を持ち、疑問点は積極的に質問して下さい。</p> <p style="text-align: center;">（実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。</p>					
医療機関等で義肢装具士として、現在も活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	検査・測定法 I (演習)	授業形態	講義 (演習)・実習	学科・年次	作業療法学科3年
				曜日・時限	木曜2限
担当教員	吉田 準				
授業概要	<p>身体障害を持つ方々に対して作業療法サービス提供のための治療プログラムを作成しそれを実施していく。そのためには、まず、その方たちの状態を把握するために検査し、測定を行ってその評価結果をまとめる事から始まる。</p> <p>この授業では、検査、測定の意義・目的を説明し、適切な時間内にそれを実施することを目指す。</p>				
学習目標	<p>それぞれの評価法の意義・目的を説明できる。</p> <p>それぞれの評価法の手順を説明できる。</p> <p>それぞれの評価を適切な時間内に実施できる。</p> <p>実際の患者さんの身体に触れさせていただき評価実習において適切に評価を行うことができる。</p>				
回数					担当教員
1回目	形態測定、感覚検査① p65～p70 p114～p116			吉田 準	
2回目	感覚検査② p115～p120			吉田 準	
3回目	感覚検査③ 反射(腱反射、病的反射)① p120～p128			吉田 準	
4回目	反射(腱反射、病的反射)② 姿勢反射・バランス検査① p130～p136 p138～p140			吉田 準	
5回目	姿勢反射・バランス検査② p138～p144			吉田 準	
6回目	筋緊張検査② 協調検査① p151～159 p160～p161			吉田 準	
7回目	協調検査② p162～p166			吉田 準	
8回目	脳神経検査① p168～p175			吉田 準	
9回目	脳神経検査② p176～p180			吉田 準	
10回目	脳神経検査③ p180～181			吉田 準	
11回目	摂食・嚥下機能検査① p184～p190			吉田 準	
12回目	摂食・嚥下機能検査② 排泄機能評価① p191～p193 p194～p195			吉田 準	
13回目	排泄機能評価② 上肢機能評価① p196～p202			吉田 準	
14回目	上肢機能評価② p204～p211			吉田 準	
15回目	まとめ			吉田 準	
教科書及び参考書	作業療法評価学第3版/医学書院				
成績評価	定期テスト60%+レポート20%+実技20%、欠席-3点減点、遅刻-1点減点				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>作業療法サービスを提供するために対象の方の検査や測定を行い、対象の方の状態を評価することは実際に仕事に就いた場合でも必ず必要である。また、学校ではできない、実際の患者さんの身体に触れて、評価させていただき「評価実習」で、対象の方の負担をできるだけ軽減し、正確な結果を得るために、この授業をしっかりと受講してほしい。</p> <p>また、検査・測定を実践的に行うためには、この授業時間内だけでは全く不足している。実習の現場で対象の方からできるだけ多くのものをいただくためにも、自主練習が必要であることを自覚してほしい。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>評価、評価結果のまとめ、作業療法プログラムの実施、再評価、対象者の状態の変化、新たなプログラムの実施、といったサイクルで、現場の作業療法サービスの提供は進んでいく。そのための第一歩としてできるだけ実践的な授業を行いたい。</p>					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅱ(精神障害)(講義)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	作業療法学科・3年
				曜日・時限	木曜日・3限目
担当教員	中村 千紘				
授業概要	精神障害領域の作業療法では、その疾患の基本的知識や特徴を十分理解していることが重要である。本講義では、精神障害の基礎知識を学ぶと共に、各疾患の特徴をICFにてまとめて表記できるように、知識の獲得を図る。				
学習目標	① こころの構造と防衛機制について知り、説明できる。 ② 精神障害の疾患についてその特徴を説明できるようになる。 ③ 精神障害をICFにて説明できるようになる。				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 精神医学と作業療法の歴史的背景				中村千紘
2回目	こころの発達理論と防衛機制				中村千紘
3回目	内因性の精神障害について 統合失調症 疾患概念と基礎				中村千紘
4回目	統合失調症 ICF分類				中村千紘
5回目	内因性の精神障害について 気分障害 疾患概念と基礎				中村千紘
6回目	気分障害 ICF分類				中村千紘
7回目	心因性の精神障害について 神経症圏 疾患概念と基礎				中村千紘
8回目	ストレス障害における疾患概念と基礎				中村千紘
9回目	神経症とストレス障害 ICF分類				中村千紘
10回目	心因性の精神障害について 摂食障害 疾患概念と基礎				中村千紘
11回目	摂食障害 ICF分類				中村千紘
12回目	身体因性の精神障害 精神作用物質による精神と行動の障害 確認小テスト				中村千紘
13回目	精神作用物質 ICF分類				中村千紘
14回目	パーソナリティ障害 疾患概念と基礎				中村千紘
15回目	パーソナリティ障害 ICF分類				中村千紘
教科書及び参考書	精神障害と作業療法 [新版] 著者 山根 寛 /三輪書店 精神医学テキスト[改訂第4版]～上島国利 立山万里 /南江堂				
成績評価	確認小テスト30% 定期テスト 70% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
本講義では、精神障害の作業療法について各疾患の特徴、各回復段階ごとの症状等の基本を伝えます。ヒトの精神領域に対応できるのは、作業療法士の強みです。また、身体領域や高齢者領域を診る上でもメンタル面がみれることで患者様のリハビリ意欲や治療対応が変わります。学んだことは身近なことから結びつくことも多いと思います。ただし、それが正しい理解かどうかは分からないので、確認をするようにしてください。第12回目に確認小テストを実施します。前半部分に実施した内因性疾患についての理解を確認して期末試験に臨めるようにしましょう。また、小テストは30%割合で成績評価に含めますので、事前にテスト勉強をして臨んでください。 基礎知識の修得後、症状をICFにて示せるように講義を行います。後期の評価・治療に結びつく大切な講義ですので、理解が不十分なところは質問等で疑問の解決を図るようにしてください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
精神科病院において、病棟作業療法、訪問看護、デイナイトケアを担当する。その後、メンタルクリニックにてデイケアの立ち上げを精神科作業療法士として実施した。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	動作分析学	授業形態	(講義)・演習・実習	学科・年次	作業療法学科・3年
				曜日・時限	木曜日・4限
担当教員	中村 千紘				
授業概要	<p>実習や臨床でも求められる姿勢・動作・歩行分析ができるように、観察のポイント、分析方法を学ぶ。正常動作のメカニズムを理解することで、異常動作との違いを理解し、全体像やポイントを掴んだ分析と記述ができるようになる。</p> <p>また、実際の動作の観察から考えられる問題点についての治療アプローチを学ぶ。</p>				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常動作のメカニズムを理解する。 2. 観察内容を分析し、一連の流れとして記述することができる。 3. 異常動作のメカニズムを理解する。 4. 分析結果を動作指導に活かすことができる。 				
回数				担当教員	
1回目	オリエンテーション 観察・記述・分析の一般原則と手順			中村 千紘	
2回目	姿勢観察と分析のチェックポイント(仰臥位・側臥位)			中村 千紘	
3回目	動作観察と分析のチェックポイント(寝返り)			中村 千紘	
4回目	異常動作の動作分析と考察 治療的アプローチ(寝返り)			中村 千紘	
5回目	動作観察と分析のチェックポイント(起き上がり)			中村 千紘	
6回目	異常動作の動作分析と考察 治療的アプローチ(起き上がり動作)			中村 千紘	
7回目	姿勢観察と分析のチェックポイント(座位)			中村 千紘	
8回目	動作観察と分析のチェックポイント(立ち上がり)			中村 千紘	
9回目	異常動作の動作分析と考察 治療的アプローチ(立ち上がり動作)			中村 千紘	
10回目	姿勢観察と分析のチェックポイント(立位)			中村 千紘	
11回目	歩行分析のチェックポイント①			中村 千紘	
12回目	歩行分析のチェックポイント②			中村 千紘	
13回目	歩行分析のチェックポイント③			中村 千紘	
14回目	異常動作の動作分析と考察 治療的アプローチ(歩行) 確認小テスト			中村 千紘	
15回目	まとめ			中村 千紘	
教科書及び	PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析/羊土社				
参考書	その他随時、プリント等の配布を行う。				
成績評価	小テスト30% 定期テスト 70% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>姿勢分析、動作分析はセラピストとして患者を診ていく上で欠かせない視点となります。患者がどのような姿勢でいるのか、なぜその姿勢をとっているのか、どのように動作を実施しているのか、もっとスムーズに動作を行うには何が問題なのか、どんな方法があるのか、それを患者にどのように指導をするのか、そういったことを考察していくことがセラピストとして必要な視点となります。</p> <p>実習において観察し、落ち着いて分析するためには数をこなすことです。なるべく多くの姿勢と動作を分析し、確認することで自信につながります。自信がないと思う人ほどたくさん数をこなして、教員に確認をし、自信をつけてください。理解をするには聞く方が早いこともあります。また第14回目に確認小テストを実施します。前半部分に実施した姿勢や動作分析について理解を確認して期末試験に臨めるようにしましょう。また、小テストは30%割合で成績評価に含めますので、事前にテスト勉強をして臨んでください。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>整形外科、老人保健施設において、身体障害領域のリハビリや整形疾患、認知症の方々のリハビリテーションを担当していた。</p> <p>その経験を活かし、動作分析とその結果を治療アプローチに活かす方法について実技を含めた講義を実施する。</p>					

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅲ(発達障害)(講義)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	作業療法学科3年
				曜日・時限	金曜2限
担当教員	吉田 準				
授業概要	発達障害とはどのような障害かを理解し、発達障害領域の対象となる主な疾患・障害についての基本的な知識と障害の特性を学習する。 また、発達領域の作業療法評価の視点および必要な検査について学習する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害について説明できる。 2. 発達領域の対象疾患・障害について説明できる。 3. 対象疾患・障害の特性を知ったうえで、発達障害の作業療法の目的や役割を説明できる。 4. 発達障害領域における作業療法の実践課程、評価の手順を説明できる。 5. 各検査の目的、概要を説明できる。 				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 発達障害の定義、発達障害領域の対象となる疾患・障害の概要				吉田 準
2回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害① ハイリスク児 p97～p102				吉田 準
3回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害② 発達障害 p103～p119				吉田 準
4回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害③ ①②の確認、脳性麻痺 p124～p129				吉田 準
5回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害④ 脳性麻痺 p130～142				吉田 準
6回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害⑤ 精神発達遅滞 p143～p166				吉田 準
7回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害⑥ 二分脊椎・分娩麻痺 p217～p243				吉田 準
8回目	発達障害領域の対象となる疾患・障害⑦ 進行性筋ジストロフィー症 資料				吉田 準
9回目	実践課程、評価の手順 ① p30～p36				吉田 準
10回目	実践課程、評価の手順 ② p37～p41				吉田 準
11回目	発達検査① 資料1				吉田 準
12回目	発達検査② 資料2				吉田 準
13回目	発達検査③ 資料3				吉田 準
14回目	発達検査④ 資料4				吉田 準
15回目	まとめ				吉田 準
教科書及び参考書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 (発達障害の作業療法 実践編) (標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学)				
成績評価	定期テスト60%+レポート40%、欠席3点、遅刻1点減点とする。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>発達障害の概要、対象疾患、評価の流れ、発達検査などについて学習し、さらに障害に対するアプローチを学習する予定です。2年次に学んだ子供の発達を合わせて復習し、理解を深めてください。発言は積極的に。</p> <p>青年海外協力隊員として赴任したヨルダンでのボランティア体験をした。この経験から、身体に障害を負った子供たちを対象とした小学校で、脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーの児童の治療的対応について伝えていきたいと思う。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>青年海外協力隊で約2年に渡って身体障害を持った小児対象の教育施設(小学校)で、二分脊椎、筋ジストロフィー、脳性麻痺の子供たちに対して行った体験を授業を通じて伝えていきたい。</p>					

更生保護(3210)		大兼健寛		併修科目・必修	
				3年	
				PT金曜1限・OT金曜3限	
授業のねらい	更生保護制度の概要と保護観察におけるダブルロールについて学ぶ。				
	日本の刑事政策における仮釈放制度や、保護観察制度の多面的側面について学ぶ。 更生緊急保護という、特殊な状況下における更生保護処遇について学び、現代社会における刑事政策と福祉政策の在り様について学ぶ。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポート 1	刑事政策における更生保護の意義と保護観察におけるダブルロールについて述べよ。	清書	5月21日(金)9:30	
	(ポイント)	我が国の刑事政策において更生保護制度が担っている役割、機能を中心に論述し、保護観察は本人の行動を統制、制限する権力的側面とその社会復帰を援助する両側面について、これをダブルロールという言葉を用いてより具体的に述べること。			
	レポート 2		清書		
	(ポイント)				
科目終了試験	学習のポイント1・仮釈放について 学習のポイント2・保護観察について 学習のポイント4・更生緊急保護について			科目修了試験7月16日(金) 実施予定	
1	4月2日	ガイダンス・更生保護とは			
2	4月9日	更生保護の意義			
3	4月16日	刑事司法と更生保護			
4	4月23日	保護観察のダブルロール			
5	5月7日	清書レポート作成			
6	5月14日	学習のポイント1・仮釈放等について			
7	5月21日	1250字レポート作成・提出締切			
8	5月28日	学習のポイント2・保護観察について			
9	6月4日	1250字レポート作成・提出締切			
10	6月11日	学習のポイント3・更生緊急保護について			
11	6月18日	1250字レポート作成・提出締切			
12	6月25日	東洋史学より見たる犯罪概念			
13	7月2日	社会学より見たる犯罪概念			
14	7月9日	科目終了試験対策			
15	7月16日	「更生保護(3210)」科目終了試験(持ち込み不可)			
		期末試験			
成績評価	出席率	30点 80%以上出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。			
	期末試験	50点 持ち込み：可 論述式			
	授業内評価	20点 3200・1250字レポート等の内容、提出状況、授業態度を考慮する。			
備考	授業中にレポート作成時間を設けはしますが、時間の都合上、満足できるほどの時間は作れないかと思いません。そのようでもありますので、自身の時間を効率よく活用し、レポート作成を行ってください				
	レポート・学習のポイントのめりは厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回るとことになれば、別途課題の提出を求めます。				

2021年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身体障害)(講義)	授業 形態	講義・演習・実習	学科・年次	作業療法学科3年
				曜日・時限	金曜4限
担当教員	吉田 準				
授業概要	身体機能の障害に対する作業療法としての治療的対応を行う基礎として、どのような治療手技があるのか、その原理を含めて学んでいく。				
学習目標	身体機能の障害に対する作業療法を実施するための治療原理を理解し習得する。				
回数				担当教員	
1回目	運動制御理論と運動学習① p70～71			吉田 準	
2回目	運動制御理論と運動学習② 関節可動域の維持・拡大① p72～p75			吉田 準	
3回目	関節可動域の維持・拡大② p76～86			吉田 準	
4回目	筋力と筋持久力の維持・増強① p87～92			吉田 準	
5回目	筋力と筋持久力の維持・増強② p92～p98			吉田 準	
6回目	筋緊張異常とその治療① p99～p103			吉田 準	
7回目	筋緊張異常とその治療② p103～109			吉田 準	
8回目	不随意運動とその治療① p110～p113			吉田 準	
9回目	不随意運動とその治療② p113～p114			吉田 準	
10回目	協調運動障害とその治療① p115～p121			吉田 準	
11回目	協調運動障害とその治療② p121～p123			吉田 準	
12回目	感覚知覚再教育 p123～p130			吉田 準	
13回目	廃用症候群とその対応 p130～136			吉田 準	
14回目	物理療法の基礎 p136～147			吉田 準	
15回目	まとめ			吉田 準	
教科書及び 参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版/医学書院 その他随時、プリント等の配布を行う。				
成績評価	定期テスト100% 欠席3点、遅刻1点減点とする。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>作業療法の治療原理を学ぶ上で、今までの「解剖学」「運動学」「生理学」がその根幹になっている。そのため、今までの基礎的なことをぜひ振り返りつつ学んでいく必要がある。</p> <p>また、実際の治療現場(皆さん学生にとっては実習の現場)で実際に治療的対応を行っていく場合に、治療原理を考えつつ治療プログラムを作っていく必要があるため、しっかりと学ぶ姿勢をもって授業に臨んでほしい。</p> <p>この授業で学んだ原理が、実習や将来の仕事現場で実際に治療的対応を行ったときにはじめて「腑に落ちる」ことがあると思う。実践の場で腑に落ちた時、本当の意味でその原理が治療として行っていけるのだと思う。かつての自分がそうであったように、まず原理を理解してもらい、各自の疑問点を持ち続けられるような授業を行っていききたい。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>この授業で学んだ原理が、実習や将来の仕事現場で実際に治療的対応を行ったときにはじめて「腑に落ちる」ことがあると思う。実践の場で腑に落ちた時、本当の意味でその原理が治療として行っていけるのだと思う。かつての自分がそうであったように、まず原理を理解してもらい、各自の疑問点を持ち続けられるような授業を行っていききたい。</p>					